

第3回

沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会

未来を担う子供たちのため、より良い学習環境を！

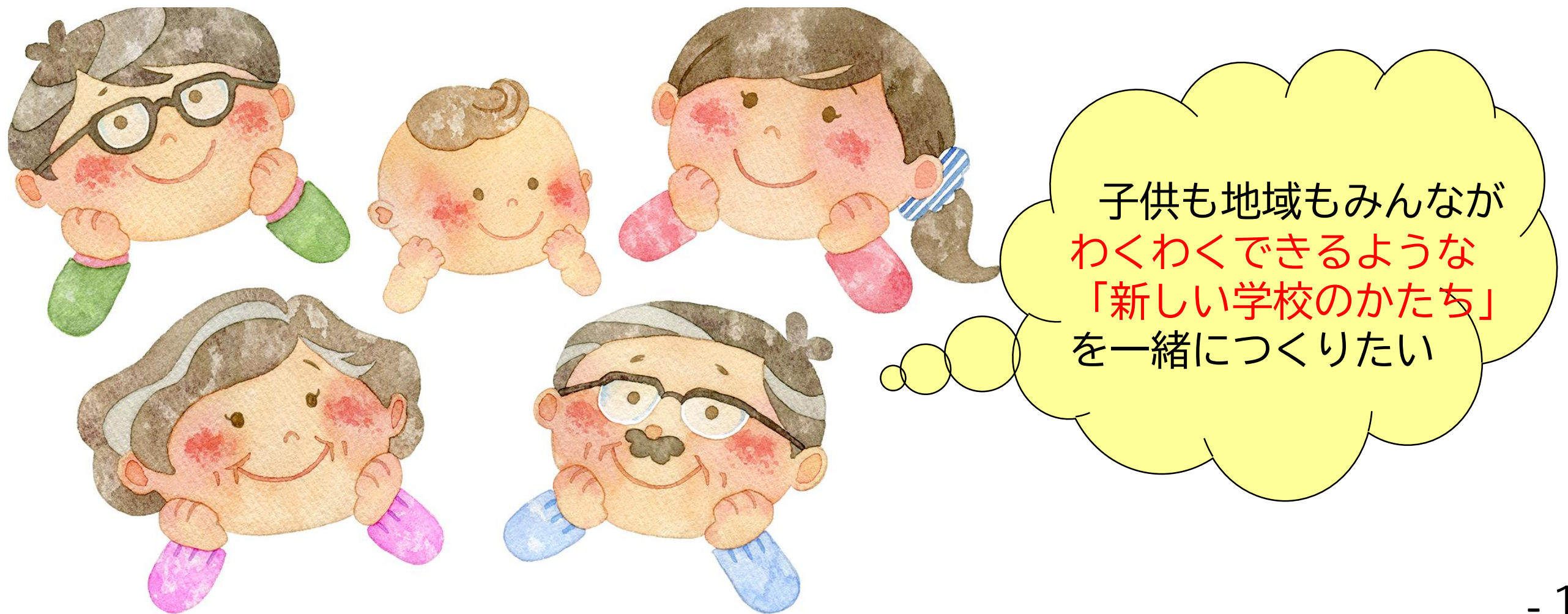


令和6年7月30日（火） 午後1時～

Ⅰ 振り返り

今まで委員の皆さんからいただいた意見をもとに
答申書のイメージを作り上げて行きます。

まずは、第1回目、第2回目の審議会での意見を振り返ります。
多くの意見をいただきましたので、項目に分けてまとめてみました。



第1回・第2回説明資料の概要について

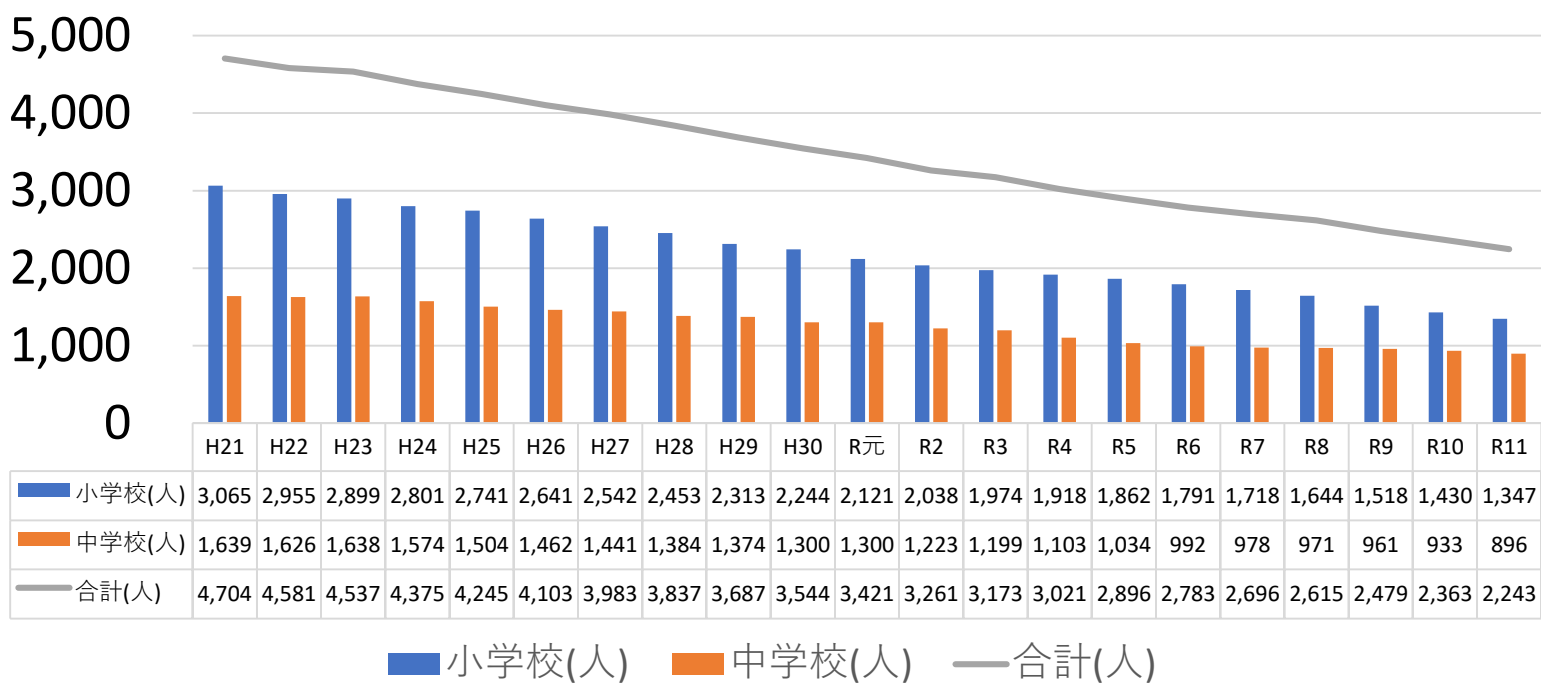
[単位：人]

沼田市の児童生徒数の推移

(平成21年度～令和11年度)



・約20年間で、児童生徒数の半数以上が減少する見込み



・平成17年に比べて出生数も半数以下になっている。

平成17年の出生数459人
令和 3年の出生数188人
令和 4年の出生数203人



- ・ 学校再編に伴う学校施設等の在り方を検討する。
- ・ 新たな未来の学校教育の構築に向けて、**学校の形態・学校運営の工夫**
 - ①**義務教育学校や小中一貫校**→9年間の教育課程で切れ目のない教育を実現する。
 - ②**小規模特認校**→学区にとらわれず、自治体全体から児童生徒が通える学校
 - ③**一定の児童生徒がいる学校（例として、本市の中学校を紹介）**→
学校行事や部活動で活気、切磋琢磨しながら成長する姿、集団の中で学ぶ機会

(1) はじめに(学校再編における基本的な考え方)

学校再編を進める必要があるか、必要がないか

これまでの審議会委員のご意見から(抜粋) ※発言内容は変えず、簡潔な表現しているものがあります。

■学校再編が必要

- (1) 児童生徒数の減少は切実な問題である。
- (2) 高校進学などを考えれば、中学校ではある程度の生徒数がいた方がよい。
- (3) 中学校では、部活動が限られてしまう。
- (4) 学校など集団の中において、切磋琢磨をして社会性を育てる必要がある。
- (5) 多様性の社会において、多くの人、多くの意見に触れる環境は必要である。
- (6) 単に人数による統廃合ではなく、沼田市らしさを生かした新しい学校のかたちを考えるべき。

■学校再編に慎重なご意見

- (1) 小規模校はきめ細やかな指導が可能であり、教師と児童、保護者との距離が近いなどのメリットもある。
- (2) 学校がなくなると、地域がさみしくなってしまう気がする。

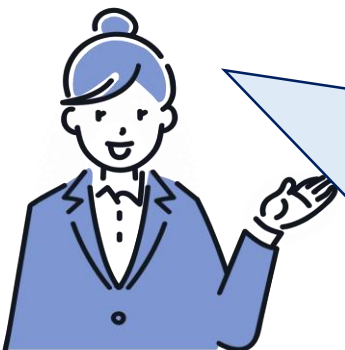
学校再編は、どのような方法で進めるか。

- (1) 児童生徒数が少ないから学校を統合するということではなく、地域の理解や子供の理解を得ながら進めていくべきである。
- (2) 長期的な計画で、余裕を持った想定で、早いペースで進めることが必要である。
- (3) みんなが知ることから始めることが大事である。
- (4) 新たな時代の学校教育は本当に目からうろこでした。
- (5) 地域の人、子供も「わくわく」を感じながら、一緒に進めて行きたい。

など多くの意見がありました。

多くの意見があった中で、これは「1 はじめに」の欄に記入すべき「学校再編を進めるに当たっての基本姿勢」について

- 1 児童生徒数にのみにとらわれず、沼田市らしい教育のかたちを工夫する。
- 2 何年後に再統合といったことのないように、長期的な展望で進める。
- 3 スピード感を持って検討する。
- 4 地域や保護者等に丁寧な説明をして、一体感を持って進める。
- 5 その他



小学校と中学校の違いなどに関する意見



- (1) 少人数の教育も先生と密に接することができるなど良さがあるが、**高校進学等**の際に、集団に戸惑うのではないかと心配である。
- (2) 中学校は学習環境だけでなく、**部活**も大きな割合を占めている。
部活の選択肢が1つしかない学校もある中、地域からコーチが入り一緒にやっている部活もあると聞いている。ここからも広がりやすいのでは。
- (3) **高校進学**などを考えると、小学校から中学校、高校と広がる方が良い。
- (4) **小学校**は少人数なりの良さを生かせるところが大きいと思うので、**中学校へ段階を踏んで行く**ことが大事かと思う。
- (5) 中学校から**適正な規模**を考えていくのも一つの方法だと思うなど

- 1 小学校は、地域とともに、きめ細やかな学習体制を工夫できる。
- 2 地域の魅力を知り、郷土愛などを育む教育を工夫できる。(特に小学校)
- 3 中学校は、学習、部活、行事面等、集団で社会性を育むことが望ましい。
- 4 高校進学等を見据え、中学校から統合を進める必要がある。
- 5 その他

(1) 重点目標・具体的な施策

沼田市らしさを生かし、どのような「新しい学校」を創造するか？

■重点目標・そのための具体的な施策は何ですか？

沼田市らしい学校（教育）のかたち
は何か？

そのために、具体的に何をするか？

統合を進めるに当たっての
「新しい学校の概念」や、「基本的な観点」となります。



■キーワード「地域」

- (1) **地域との関わり合い**は、非常に大事である。
- (2) 地域から学校がなくなることに対する、**地域の声**は厳しいものがある。
- (3) **地域とともに**ある学校づくりをする。
- (4) **地域への郷土愛**を考えていく必要がある。



■キーワード「子供」

- (1) 子供たちは学校が統合しても、すぐに友達ができ、**新しい環境に適応**できる。
- (2) 子供たちが**生まれ育ったところを愛するための学習**を続ける。
- (3) 子供たちが**生きる力を育める**ような学校の役割

■キーワード「安心・安全」

- (1) **子供の安全**を考えると、統廃合ではスクールバスの検討も行う。
- (2) 特に山間部などでは、**通学時の安全**というのは検討してほしい。

■キーワード「交流・多様性など」

- (1) 体験学習など、**保護者の交流**も必要
- (2) 多様性の時代で、**色々な考え方に触れる機会**は必要
- (3) 地域で教育活動をしてくれる人が、引き続き**生き生きと活動できる場**にする。

地 域

- ・ 地域資源の学習
- ・ 生まれ育った地域への郷土愛を育む工夫

交 流

- ・ 異学年との交流
- ・ 他学校との交流

安 全

- ・ スクールバスの検討

子供の未来



重点目標

- ・ 具体的な施策



重点目標

- ・ 具体的な施策



例えば、
このような
イメージもあり
ます。



例えばキーワードから重点目標を考えると・・・

(3) 適正規模・適正配置の基本的な考え方

小学校と中学校の適正規模・適正配置に関する基本的な考え方は

諮問：沼田市立小中学校の適正規模・適正配置及び通学区域の基本的な考え方

★小学校では

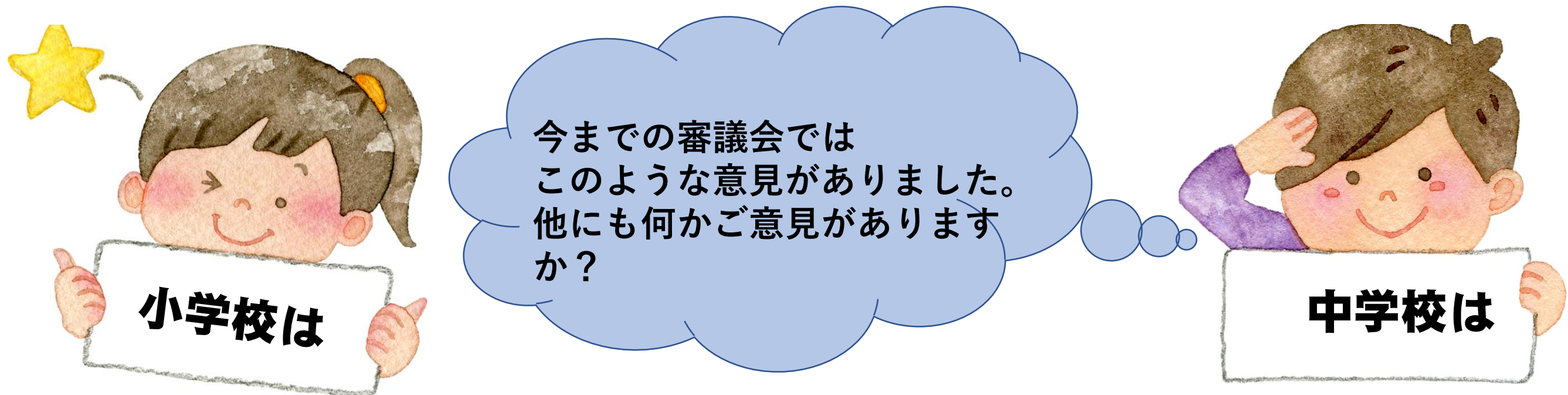
小規模でも、地域とともにある学校が望ましい？

一人一人に目を配れる、きめ細やかな体制が大切？

★中学校では、

一定の集団(規模)の中で社会性を育むことが必要か？

★その他、小学校・中学校の適正規模や配置について



適正規模（学級数や児童生徒数）・配置（通学距離や時間）の目安は

適正審議会の答申では、沼田市としての適正規模や適正配置の目安を示し、
「基本方針」、「学校再編実施計画」へ生かしていくか



今までの審議会では
「クラス替えはできた方が良い」
といったご意見がありました。
他にも何かご意見がありますか？

中学校で、
望ましい通学時間は

小学校で、
望ましい通学時間は



■ 適正配置（通学区域）の目安について

望ましい通学時間はどのくらいか



適正配置（通学時間や距離）は？

例：A校とB校の統合して、校舎はA校とした場合 → B校の生徒の通学時間の目安

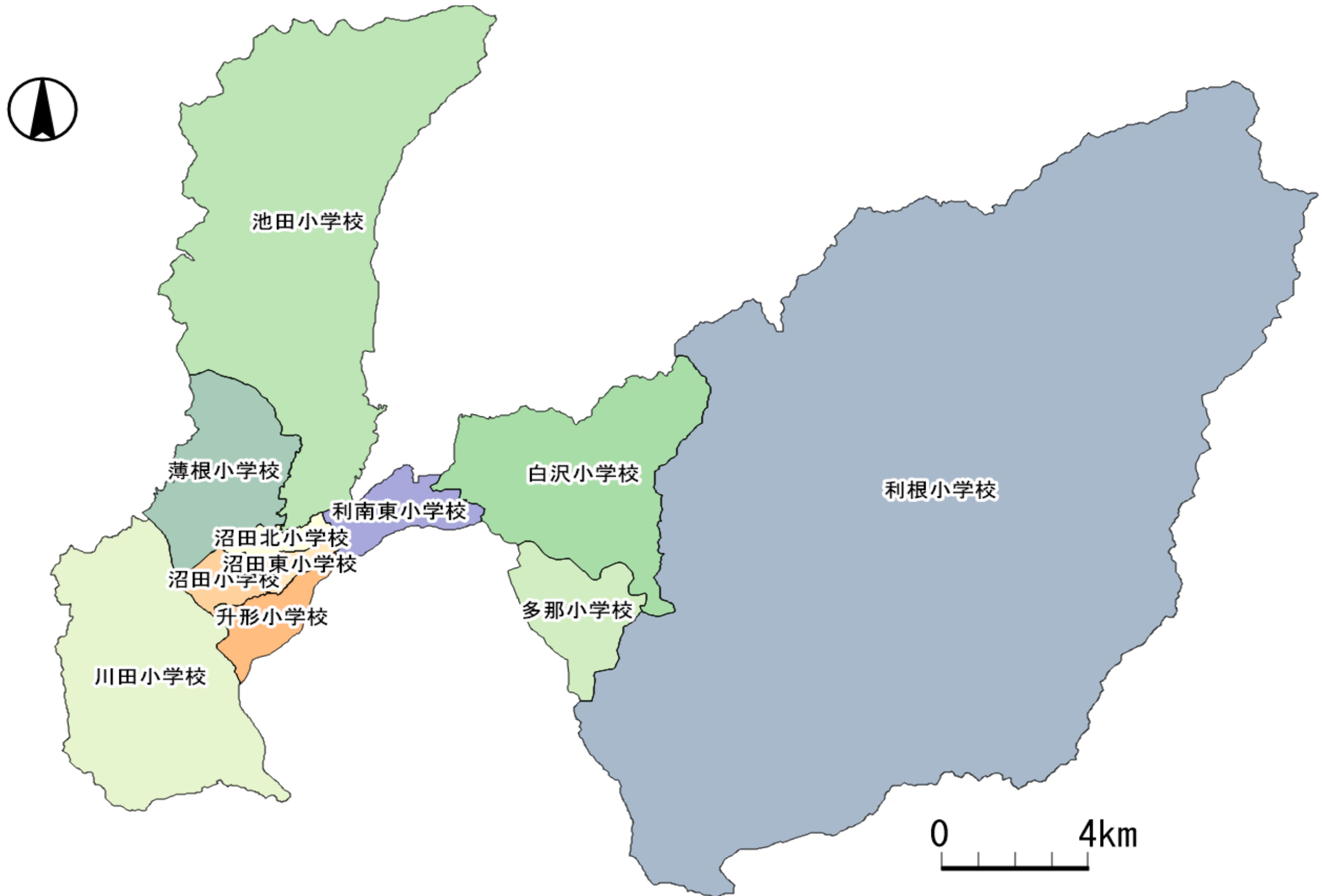


望ましい通学時間を目安として示すことで
どのエリアの学校まで統合するか検討する際の目安になります。

※時間帯、バス停の場所や数、利用する児童生徒数等により、通学時間は大きく変動するため、あくまで目安となります。



小学校 現在の配置図



現状の通学時間（参考）川田小学校の例

※ここで通学時間とあるのは、スクールバスの乗車時間です。

川田小学校

登校時①

岩本方面

停留所等	時刻	通学時間
停留所発	7:20	15分
学校着	7:35	

登校時②

屋形原方面

停留所	時刻	通学時間
停留所発	7:40	20分
学校着	8:00	

下校時①

主に低学年

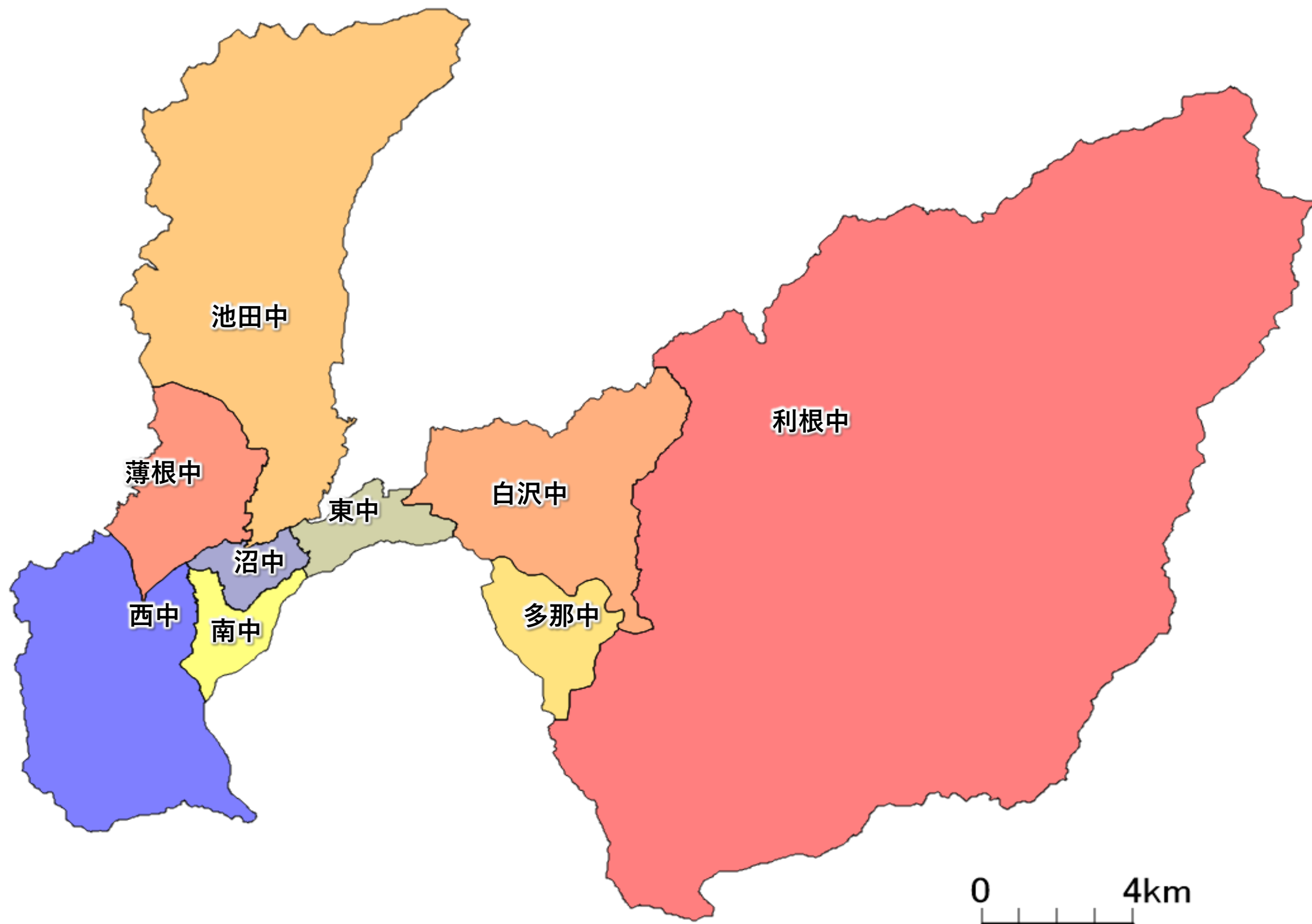
停留所等	時刻	通学時間
学校発	15:00	35分
停留所到着	15:35	

下校時②

主に高学年

停留所	時刻	通学時間
学校発	15:50	35分
停留所到着	16:25	

中学校 現在の配置図



現状の通学時間（参考）池田小中学校の例

池田小中学校

※ここで通学時間とあるのは、スクールバスの乗車時間です。

登校時① 玉原・上発知方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:15	38分
学校着	7:53	

登校時② 奈良方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:58	7分
学校着	8:05	

登校時③ 佐山方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:25	22分
学校着	7:47	

登校時④ 岡谷・秋塚方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:51	17分
学校着	8:08	

下校時① 小学生		
停留所等	時刻	通学時間
学校発	—	27分
停留所到着	—	

下校時② 中学生		
停留所	時刻	通学時間
学校発	—	43分
停留所到着	—	

※一番遠い停留所ではない

現状の通学時間（参考）池田小中学校の例

池田小中学校

※ここで通学時間とあるのは、スクールバスの乗車時間です。

登校時① 玉原・上発知方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:15	38分
学校着	7:53	

登校時② 奈良方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:58	7分
学校着	8:05	

登校時③ 佐山方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:25	22分
学校着	7:47	

登校時④ 岡谷・秋塚方面		
停留所	時刻	通学時間
停留所到着	7:51	17分
学校着	8:08	

下校時① 小学生		
停留所等	時刻	通学時間
学校発	—	27分
停留所到着	—	

下校時② 中学生		
停留所	時刻	通学時間
学校発	—	43分
停留所到着	—	

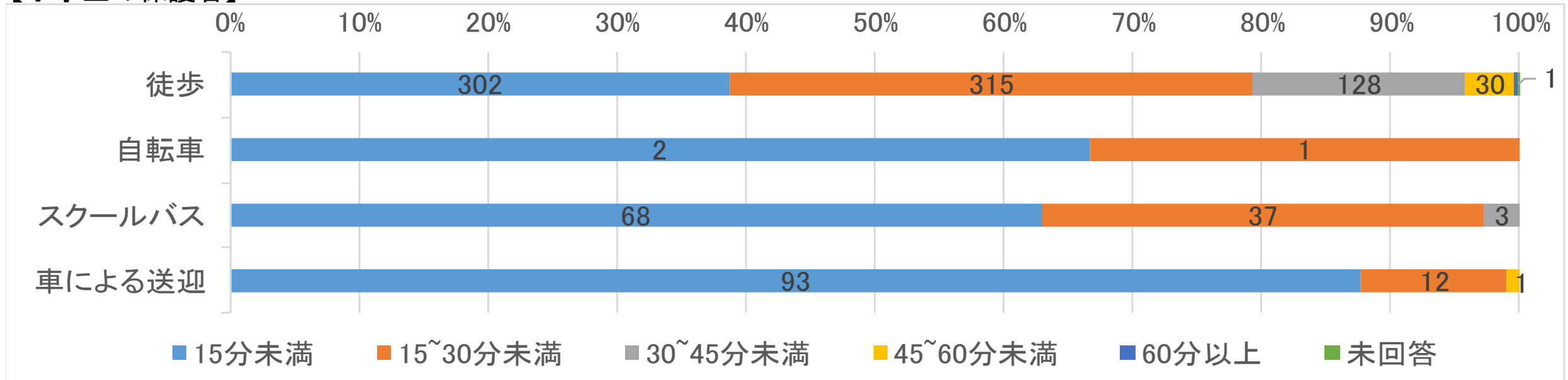
※一番遠い停留所ではない

通学方法別の所要時間に関するアンケート結果（参考）

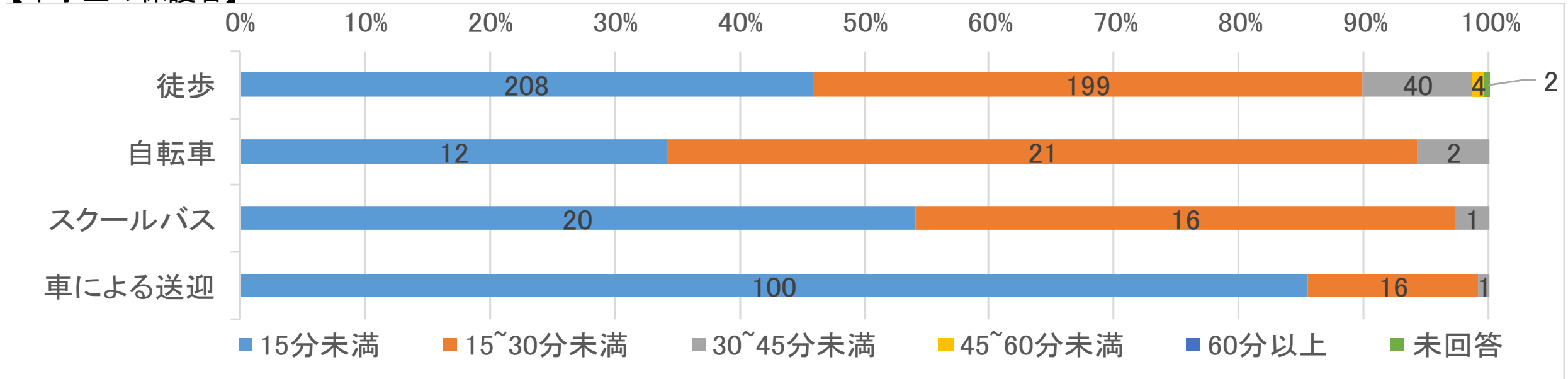
Q 通学方法別の所要時間

（第1回適正審議会資料より）

【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



- 【小学生】
- ・徒歩の場合の所要時間は、30分未満が8割程度を占めた。
 - ・児童の通学に係る所要時間は、ほぼ全員が60分未満であった。
- 【中学生】
- ・徒歩の場合の所要時間は、30分未満が9割程度を占めた。
 - ・生徒の通学に係る所要時間は、ほぼ全員が45分未満であった。

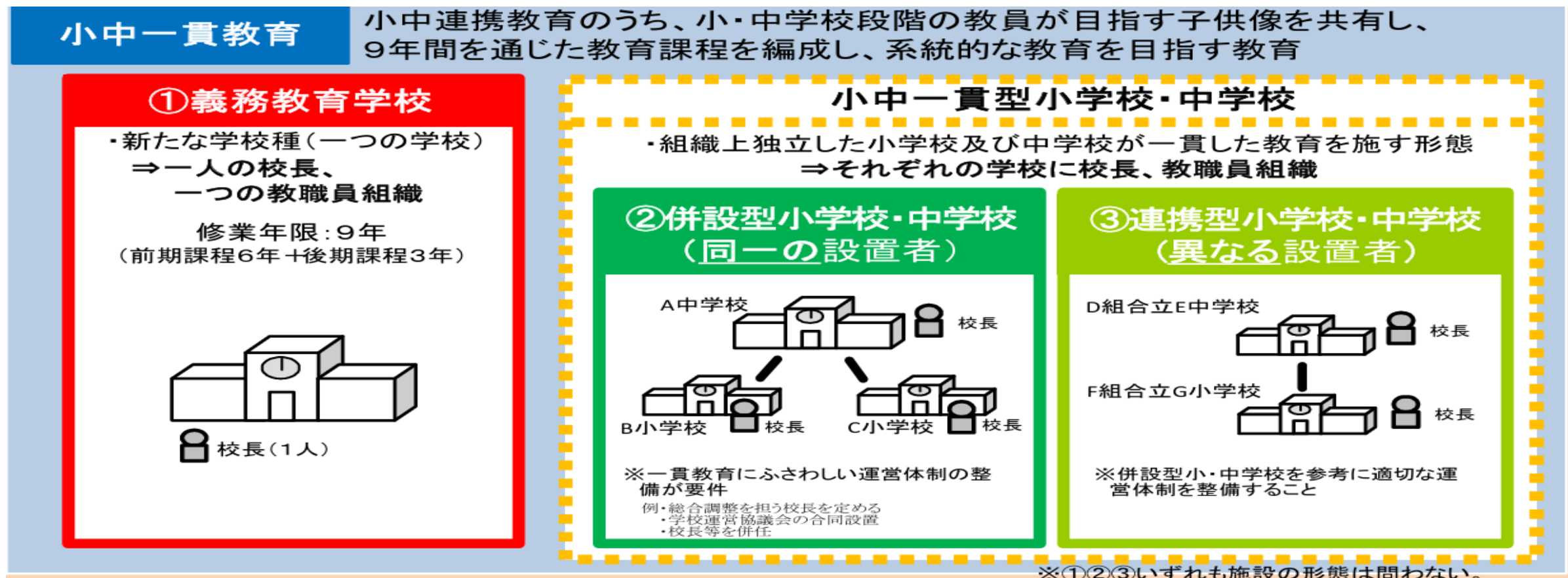
その他望ましい視点は

★今後検討すべき「新しい学校のかたち」などの視点について

今までの審議会では、

「義務教育学校」「小中一貫校」「小規模特認校」などのキーワードが出されました。

そのほか、答申書に記載する視点について、何かありますか



沼田市に合った「適正規模」・「適正配置」 魅力を生かした「学びのかたち」

未来を担う子どもたちのため、将来を見据えた答申をお願いします。

